

1 2 月報(2023 年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【シノドスについて学びましょう】

尾道教会



小西神父様より「シノドスについて学びましょう」というタイトルのもとに、尾道教会から 2 日間を通して 18 名が参加しました。それぞれの参加者の感想をまとめたものを記します。

・「始めにシノドスとは『共に歩む教会』の意味と知り皆さんは納得しました。いつもミサに与かり「み言葉」を聞いていますが耳だけで聞くのではなく全身全霊で聞いているだろうかと先ずは振り返りから始めました。み言葉の分かち合いをしてより深く自分の日常生活に生かすためにも小グループでの集りは大切でしょう。」

・「神父様から対話の実践についてステップ 1～ステップ 7 までの具体例を通して教えて頂きましたが必ずしもそのようでもなくとも聖霊に導かれて装わずにありのまま、子どものように話し合いが出来たらいいですね。」

・「ミサが終わればサッと帰らずにおしゃべりできる場所を作ることも再開したいという声もあります。(コロナ禍ですっかり消滅したので) それから色々な事情でミサに与かりたくても与かれない人々のためにも現在与ることの出来る人はその方の分まで祈って下さいとの言葉も心に残りました。」



・「私達は子や孫に信仰を繋げる難しさもそれぞれあるでしょう。だからこそ聖霊の助けを借りてその方達やまた特に貧しい人々のためにも祈りましょう。」

・「パパ様や司教様たちだけにお任せするのではなく小教会の私たちにもできる事はたくさんあります。自分達の教会の現状に合わせて考えるチャンスとしてとらえましょう。」

・「教皇様は「私のために祈って下さい」と謙虚にお願いされています。

尾道教会も小さいながら共に歩いて行く教会、誰も排斥しない共同体とし手を携えて行きたいと思えます。近隣教会の皆様祈って下さい。そしてよろしく願いいたします。」

【備後協働体研修会】

藤本洋子



今年度の備後協働体研修会は、東京教区シノドス担当の小西広志神父様をお招きして、11月4日(土)・5日(日)に福山教会で、開催されました。

教皇フランシスコは、今年2023年10月に開催された第16回シノドス(世界代表司教会議)に向けて、2021年秋に10項目の質問票を全世界の教会に送付されました。それは、まさにシノドスのテーマ「ともに歩む教会のための交わり、参加、そして宣教」

の具体的な実践と言えます。教区の代表者である司教にまかせるのではなく、すべての司祭、修道者、信徒とともに考えていこうとする教皇の姿勢の表れではないでしょうか。「シノドス」とは、「ともに歩む」という意味のギリシャ語です。神であるイエスの方から私たちに近づき、ともに歩んでくださっていることを思い起こします。

今回のシノドスのアピールの一つに、「聞く教会」ということがあります。信者が互いに相手の言葉に耳を傾ける、つまり、「聞く」とは感覚的に耳だけで聞くのではなく、そのひとの全身全霊で聞くこと、なのです。私たちは、他者に確かに聞いてもらえたと思えた時、すがすがしい喜びと希望が湧いてくるのを感じます。そこで、気負いのない変化を内に体験します。私たちが、よく聞くことができますように、良い耳と清さを保ち行動していくことができますように。

世界代表司教会議(シノドス)第16回通常総会の第一会期(2023年10月4日～10月29日)が閉会するにあたり『神の民への手』(カトリック中央協議会ホームページ)が届いています。お読みになることをお勧めします。

来年2024年10月に開催される第二会期に向けて学び、祈りを深めたいと思えます。

【11月2日『死者の日』のミサに与って】

田中美緒子

11月は死者のために祈る月でした。『死者の日』のミサのために、私達はそれぞれに祈りたい人の名前を短冊に書きました。私はミサの始めの時、そこに書かれた名前をお読みする手伝いをしました。一人一人のお名前を、信者の皆さんの愛する大切な方々なのだと感じながら、祈りを込めてお読みしました。

よく知ったお名前が何度か出て来ると、何人もの信者さんが書かれたのだなと思いました。また、あ、この方は亡くなられていたのかと、初めてその場で知って驚いたお名前もありました。お読みするうちに、こんなにも沢山の方々が私達と繋がっているのだな、私達を見守りとりなして下さっているのだなと、なにか温かいものに包まれているような、心強い感じがしました。

前教皇ベネディクト16世によると、私達の存在は互いに深く結び合わされているので、私達の行うことは必ず他の人にも影響を及ぼします、こうして世を旅する靈魂の祈りは、死後に清めを必要とする他の靈魂を助けることができます、ということです。

「亡くなった方々が神様のもとで永遠に喜ぶことができますように。そして私達のために祈り続けて下さいますように。」と、ミサの中で皆んなで一緒に心を合わせてお祈りできたことは、大変有難いことでした。私達の祈りは神様に届いていると思います。そして生きている私達も、
 永遠のいのちへと招かれています。その招きに応じて相応しく歩んでいけますようにと、お祈りした一日でした。

【周りの人にやさしく出来る人でいれるための提案】 マリア・セシリア松坂慈子

第一の掟はこれである「・・・心を尽くし精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くしてあなたの神である主を愛しなさい。」 第二の掟はこれである「隣人を自分のように愛しなさい。」この二つにまさる掟はほかにない。(マルコ 12-30・31)

ここ何回か、ミカル神父様がミサの中でのお話で強調されたことに、周りの人にやさしくするためには、周りの人をよく見て勇気を出して行動することの大切さがあったように思います。ほんとうにそうだと心から思いました。そしてそのためには自分自身が元気でなければ…ゆとりを持って周りを見るためには自分が元気でなければと思いました。それにはちゃんと食べて(出来るだけ、たまご等たんぱく質や野菜を腹八分目摂るようにし)、よく寝て(疲れをとって)いつも元気でいなければ…と。

そこで一つどうしても皆さまに、同志の皆さまにお伝えしたく思ったことが…。



最近息子の勧めで夜寝る前に血圧を測っているのですが、腹式呼吸を何度か繰り返すことで血圧が下がることに気付いたのです。(それを勧められておられる、研究しておられる医学博士がおられるのですが)そしてその状態で寝ると熟睡が出来て疲れが取れ、元気に目覚めることに気付いたのです。

いまひとつ、このところ寒くなってから暑かった夏よりも血圧が下がりにくいことが分かり、その理由を考えてみたところ、暑かった時のように水分を摂っていないことに気付きました。しっかり摂るようにしたところ下がってくれました。暑い時期のように水分って摂りにくいので、心して摂るようにしなければと思います。

そこで提案です。寝る前に、聖歌なら最高なのですが、好きな歌を腹から声を出して2.3曲歌って、しっかり水分を(あったかい白湯等)飲んで休むと、良い眠りができ次の日元気に目覚めて、周りの人にやさしく出来る…そんな日々を送れたらどんなに素晴らしいことかしらと…。すみません。同志の皆さまにどうしてもお話したくて、またまた書かせて頂いてしまいました。

【徒然ではなかったこと】

藤井幸恵

徒然という意味を調べてみると、手持ちぶたさ、退屈である、所在なさ、とありましたが、このたび私に起こった徒然ではない出来事を書きたいと思います。



痛い！痛い！痛い！

痛いという言葉では言い表せない痛みがある日突然私の腰のまわりに襲いかかってきたのです。まるで電気棒で電流を一日中ひっきりなしに体中に流されているような感覚、痛みが襲ってきたのです。当然痛くて24時間寝れない、寝返りがうてない、食事が摂れないで結局入院せざるを得なくなったのです。

入院はしても痛みが変わるわけでもなく、ただただ痛みが通り過ぎてくれるのを待つ日々が続きました。

この痛さの原因は、帯状疱疹という病名だそうです。帯状疱疹は疲れた時、ストレス、免疫力の低下、それぞれに要因はあるらしいのですが、はっきりとした事は病院の先生にも「原因はよく分からない」らしいとのことでした。

痛い痛いという痛さに全神経が乗っ取られ痛さに心も体も支配され気分疲弊し「このままずっと痛さが続いたらどうしよう？家に何時帰れるのだろうか？」とか落ち込むような事ばかり考えてしまい、聖人のように「神様この痛さをあなたに捧げます」なんて到底いえないし、考

えることといったら、どうにか早くこの痛みが通り過ぎて行ってほしいとだけ考え、願っている状態でした。

少し体調が回復していくにつれ、私の心の状態を振り返ってみて反省しきりでした。私って本当に信仰が薄いし、信頼がたりないなーと我ながら情けなくなりました。

でも、こうゆう私をイエス様は愛し、支え、赦してくださる方なのだからと改めてイエス様が苦しい時も楽しい時も、今回は苦しかったのですが、常に横にいて私が気付かなくても一緒にいて見守っていてくださっているのだな！と感じさせられた経験でした。

でも病は何時、忍び寄るかわからないので日常からの生活を改めて見直したいと思いました。でも本当に痛かったです！！

【ブラザー阿部のみ言葉の分かち合い】—ルカ福音書1章—

『幼子よ、お前はいと高き方の預言者と呼ばれる。主に先立って行き、この道を整え、主の民に罪の赦しによる救いを知らせるからである。』

今日は、この言葉を考えてみました。

ザカリアは、生まれる子の洗礼者ヨハネについて預言しています。

キリスト救いの道を準備するという大切な役目です。

ヨハネは、キリストを全面に立て、自らは、消え入る者として生涯を捧げました。

わたしたちにも、このヨハネと同じ使命があるのです。

キリストに倣って生きること、それは、言い換えれば、キリストの救いと愛の喜びをすべての人に告げ知らせることです。

すべての人を神さまに導くのです。

私には出来ないと思うかも知れません。でも、その心で生きることです。幼子イエスさまが良い見本です。

今日は、ノベナの最終日。

「主イエスよ、あなたは私の平和」 ジャック・ベニーニュ・ボスエの祈りを送ります。

主イエス、あなたは天と地を和解させ、わたしたちの歩みを平和の道に沿ってみちびくためにお出でになりました。

平和よ、あなたは私の不安な心の最も深いあこがれ。

イエスよ、あなたこそ私の平和、あなたは私を、神との、自分自身との、そしてすべての人との平和に導きいれてくださいます。



イエスよ、罪のゆるしが得られるという、生き生きとした信仰を通して、私の良心に安らぎを与えて下さい。

あなたの聖なる、永遠のみむねに対する絶対的な服従を、私の中に注ぎ入れる恵み、その恵みの中に注ぎ入れる恵み、その恵みに対する甘美な信頼を、私にお与え下さい。

みむねの中にだけ、私たちの平和があるからです。

主イエスよ、平和はあなたご自身のことです。

あなたの中にあり、あなたから生じる平和で、私の心を満たしてください。

今日の夜はイエスさまの誕生です。

みなさんに、心からの祈りを送ります。

【南相馬便り ⑤8 2023年11月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村令子



七月に、小高駅に近い所に「おれたちの伝承館」という災害伝承館がオープンしました。

東京電力福島第一原子力発電所の原発事故の教訓を伝承する現代美術家たちの手作りの美術館風の伝承館です。

原発によって避難を余儀なくされた会社の空き倉庫を自分たちの手で改修し、避難指示解除から7年目の7月12日にオープン。原発事故の災禍を伝える絵画や彫刻、写真など約50点が展示され、「アートがもたらす優しい問いかけを通して、原発事故を問い直してほしい」と訴えています。

布の貼り絵は、故郷の景色を布の端切れで描いて、自分たちの想いを表現しています。



津波で荒らされた、村上海岸の小さな小さな貝殻が、叫んでいます。



「海にトリチウムを流さないで!!」

「海を汚さないで!」

「アンゼンっていつても だれにもわがねべ」

(村上海岸の小さな貝殻)

この作者は、ある新聞記事で、干からびた仔牛の死骸が「まるで紙のようだった」という表現を読み、この作品を構想したそうです。



千年以上も引き継がれてきた伝統工芸越前和紙で、否応なく何百年も引き継がなければならなくなつた放射線被害を表現（作者の文章を要約）しています。これを見て私はちょっとショックでした。牛を飼っていた方のいろんな話を聞き、写真集でも見ていましたが、芸術作品の強く訴える力を感じました。

7月24日、カリタスのメンバーは、5月に帰宅困難区域を解除された飯舘村の長泥地区（8月号で紹介）の視察に行きました。中間貯蔵工事情報センター（中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO））の主催する「飯舘村長泥地区環境再生事業見学会」です。

飯舘村の長泥地区では、除染で発生した土壌のうち、放射能濃度の低いものを再生資材化して盛土に活用し、農地を造成する事業が進められています。

私は昨年10月に一度視察をしているので、その後どのようなになっているか確かめたいと思い参加しました。それはそれは美しい緑の山道を車でいろは坂のようにくねくねと上り下りして、山の奥にある「花の里、長泥地区」と言われる村にたどり着きました。

再生資材化された土の上に、放射線被害のない土をかぶせた高台に、長泥地区コミュニティーセンターが出来上がっていました。でも、近くに民家はありません。コミュニティーセンターだけが立派に出来上がっているという感じでした。



トルコギキョウの実証実験場↓と稲作、大豆、トウモロコシの実証実験場（畑）。農家の方は福島から通っておられるとのこと。今のところ、基準値以下の放射線量で問題はないということです。



でも、ちょっとショッキングな話も聞きました。長泥地区はもとも住民も少なく、政府は除染する気はなかったようですが、住民が帰りたいと除染を強く希望したら、実証実験場として受け入れるなら除染してもよいと、条件を付けられたとのこと。住民は泣く泣くその条件を受け容れて、実証実験場としての村の再開を決断したそうです。昨年、住民の方の口から帰還できることを喜んでお

られたのを聞きながら、私たちは帰りの車で「言わせられている感じがしたね」と話したのが当たっていたように思いました。今回は住民の方との接触がなかったのが残念でした。真相はなかなか見えてこないものですね！



【帰天のお知らせ】

ヨゼフ 種本久雄様(94歳)

テレジア 中村カオル様(92歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

【12月・1月の行事予定】

12月		1月	
3(日)	待降節黙想会 講師：塩谷神父	1(月)	神の母聖マリア 二十歳の御祝い
8(金)	無原罪の聖マリア		
10(土)	パウロ会聖品販売	6(土)	備後協働体幹事会
24(日)	クリスマス前夜祭	7(日)	主の公現 日曜学校始業式
25(月)	主の降誕		
27(水)	聖ヨハネ使徒福音記者	8(月)	主の洗礼
28(木)	幼子殉教者	18(木)	キリスト教一致祈祷集会
30(土)	チェロコンサート	21(日)	聖トマス小崎巡礼
31(日)	聖家族 聖時間	28(日)	世界こども助け合いの日(献金)

【編集後記】

今回も内容が濃く深いですね♥皆様の信仰生活がうかがえる記事ばかりです。そしてそれは私達ひとり一人にとって勇気づけられ助けとなって前を見つめて歩むことのできる光となります。この共同体の中で一緒に生かされていることに感謝しながらこれからも繋がってほしいと思いました。(MH)